

第3回ユーザー懇談会(下)

NPO法人全国木材資源リサイクル協会連合会(彦坂武功理事長)は10月22日、最近の木くずチップ供給動向などについて意見交換を行うユーザー懇談会の第3回会合を開催した。先週に引き続き、サーマル部会の内容について紹介する。

◆ ◆ ◆
日本製紙原材料本部 井澤佳昭燃料部長はあいさつで「世界的な景気低迷のなか、住宅着工数の減少に伴う製材所の生産減少などもありチップは不足している。需要面では今年だけでポイラー11台が竣工し、昨年比140万ト増。ペレットや敷料の需要もあり厳しい状況は続く。現時点ではポイラーのトラブルもあり材不足は思ったより深刻ではないが、年末にかけて正念場」と語った。

続いてユーザー各社の報告が行われた。「木くずはパーク、生

木を35%取り込むが、含水率が高いため搬送系のトラブル、保管による発熱などがある。ポイラーの安定操業も課題。今後はさらに生木や林地残材の利用が必要。購入価格は上昇しているが、原油価格とともに石炭価格も徐々に下がっている。チップの上昇が続くと設備投資計画の効果が出ない」

「木くず、RPP、廃タイヤを含めて品質は低下しているが、対応できるよう工場の設定を変更した。燃料は現在のところ集まっている。他社より安く買う意識はない。廃棄物の処理費用は下落の途、業界が姿を変えていく必要がある。林地残材は民間でマテリアル・サーマル利用していくことが必要」

脱解体材が課題に

サーマル部会

り現在は解体材55%、伐採材45%にシフトしている。(生木は含水率、土砂分が多く搬送システムの摩耗、定期補修

が頻繁になり、灰分も多い。木質以外の廃棄物、おが粉、草類、大豆のしほりカスなどで、安定集荷に努めている」

が、廃材不足、チップ価格の高騰は避けられない。全ユーザーが安定操業できるため国の補助やRPSの義務量増加が必要。生木はポイラーの対策を行って、林地残材を燃料として利用できる仕組みをお願したい」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「将来的には建設系廃材の減少が見込まれる。林地残材の利用が進むよう、地方自治体と協議している」(関東彦坂武功会長)

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」

「燃焼速度を高めるため各工場に破碎・吹き込み設備を整備してダスト見合いを投入している。徐々に生木も投入しており、ランニングコストや使用量が上がる。低品質を受け入れる努力が必要で、価格面では相場にあった対応をしている」



第2部サーマル部会には、日本製紙、バイオパワー勝田、ファーストエスコ、住友大阪セメント、いわき大王製紙が出席した

協会、代替燃料を提案

連合会・中川和義専務理事は燃料チップの需要調査結果について、「発電、製紙会社で輸送費負担が増加し、セメント会社では横ばい。各社から品質安定供給について要望が目立った」と報告。生木の使用量も急増しているという。

「ユーザー同士の競合に、チップ生産者に戸惑いが出ている。協会としての対応が課題(北日本・鈴木隆代表理事)」

「山陽側でバイオマスをポイラーが稼働したため、中国山脈を越えて集荷している。林地残材を出すにはコストがかかる。国産材を利用する方向に進んでもらいたい(中・四国・田中一正役員)」

「協会が把握するより実質の処るのが早い。補助がないと現在の採算ベースには厳しい。地産地消が必要。カローリが年比横ばい(東海、一極端な値いものを検討し、新築下げもあり必要量の確保も難しい。販売価格は10月は在庫を蓄える時期だが、前年同月比

「協会が把握するより実質の処るのが早い。補助がないと現在の採算ベースには厳しい。地産地消が必要。カローリが年比横ばい(東海、一極端な値いものを検討し、新築下げもあり必要量の確保も難しい。販売価格は10月は在庫を蓄える時期だが、前年同月比

「協会が把握するより実質の処るのが早い。補助がないと現在の採算ベースには厳しい。地産地消が必要。カローリが年比横ばい(東海、一極端な値いものを検討し、新築下げもあり必要量の確保も難しい。販売価格は10月は在庫を蓄える時期だが、前年同月比